

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしく、安心と尊厳を第一とする理念を掲げています。地域との交流を図っていくことを、理念に入れました。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、勤務者全員で理念を斉唱しています。食堂の目に付く所に掲示しており、実現できるよう職員同士の話題にしています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月1回の家族への手紙送付時や郷便り、行事の案内文書に理念を記載し家族への広報を行っています。2ヶ月に1回発行する郷便りにも理念を掲載し、家族に発送すると共に地域に回覧していただいています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中の隣近所への挨拶は気軽に笑顔でできています。活け花のボランティアの方も気軽に立ち寄ってくださいます。自治会長に、地域の集会で「きままの郷に遊びに行きましょう」と声かけしてもらえようお願いしてあります。公用車を使って町内のドライブに行き、自宅に立ち寄ったり隣近所の方と話す機会を作っています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しています。清掃活動や防災訓練等の案内をいただき、参加しています。地域のイベントには積極的に参加するようにしています。学生の職場体験学習も受け入れています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人クラブの見学を受け入れ、生活の状況を説明して理解を深めてもらっています。質問があれば、地域で利用できる介護サービスについても説明しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人一人が真剣に自己評価に取り組んでいます。外部評価の結果は職員全員に報告し、改善すべき点については話し合いをしました。 《改善》 運営推進会議の内容を、郷便りに掲載するようにしました。預かり金台帳に家族確認印と送付日、管理者確認印の欄を作りました。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。 会議には利用者代表にも出席していただき意見を述べていただくと共に、出席者からの意見をケアに活かせるよう考慮しています。運営推進会議の議事録も、毎月市の担当者に提出・報告しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護保険更新時や重心医療の手続き、必要書類の提出等利用者の代行で市役所支所に出向き担当職員に相談しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・虐待防止の年報を職員全員で熟読し学習しています。関連施設職員からの講義も計画しています。 現利用者に対して必要はありません。 今後必要があれば、在宅介護支援センターや社会福祉協議会に相談することになっています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修や関連施設との連絡会での情報を受けて職員に報告してあります。 施設内での虐待は絶対にあってはならないものと職員全員が認識しています。 万が一虐待があった場合、すぐに気づくよう利用者一人一人の観察を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には時間をかけて重要事項の説明を行い、家族に持ち帰ってもらって再度ゆっくり読んでもらっています。その上で不明な点や気になることを質問してもらい、十分納得されてから署名・捺印してもらっています。今年4月からの法改正による加算については、家族会で説明すると共に文書で説明し、了解を得ています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や苦情はよく聞き職員で情報が共有できるようにしています。運営推進会議にも入居者様に交代で出席していただき、不満に思っていることがあれば話していただいています。その上で出席者からの意見を聞いたり、話し合って解決するようにしています。自分の考えを思うように表現できない利用者に対しても、日常生活での態度を観察して気づくように勤めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が知りたい点を考慮しながら毎月の手紙で、写真入りの近況報告をしています。家族の面会時には個別に報告しています。預かり金の使途も、領収証・残高のわかる書類を毎月送付しています。必要に応じて随時電話やファックスで連絡を取るようにしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、行事に併せて家族会を開催しています。家族同士が気軽に会話できる雰囲気作りに努め、その話し合いの内容は真摯に受け止めています。本人や家族からの苦情や相談に対しては、職員のカンファレンスにより解決策を探るようにしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では、職員が自分の意見や要望を自由に発言しています。出された意見は、改善できるよう皆で話し合っています。日頃から、気軽に意見が言えるような関係を築いています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯は最低3人の勤務者が確保されており、入居者の要望に応えられる体制をとっています。突然の職員の休みには管理者が対応しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応するため、担当職員を決めています。やむを得ず異動や離職があるときには十分な引継ぎを行い、新入職員が入る際にも利用者నికిちゃんと紹介し不安を与えないようにしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の苑内での勉強会開催、協力病院で毎月開催している勉強会には交代で出席しています。法人外の研修にもできるだけ出席するようにしています。学習したことは職員会議で報告し、全職員で共有しています。資料や復命書はファイルしており、いつでも閲覧できるようにしてあります。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会に出席することにより、必要に応じて交流を図ることを約束できています。関連事業所との事例検討会が年6回計画されており、代表の職員が参加することにより他事行所の意見をケアに活かしています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間を利用して職員と雑談しながらお互いの悩みを打ち明けあったり、不定期ですが食事会をして親睦や気晴らしの機会を作っています。職員の疲労について知るため、毎日就業時の健康チェックを行っています。問題のある時には、原因がストレスにあるのではないかと話を聞くようにしています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が必要な資格を取得できるよう励ましています。経験年数の長い職員から順次介護福祉士資格の取得を促し、無資格の職員にはヘルパー2級取得を勧めています。職員個々の仕事内容をよく観察し、優れているところを評価し努力を認めています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人や家族と面談を行うことにより、信頼関係を築くようにしています。また、施設見学に来てもらい職員や他利用者との顔合わせを行うことにより安心して入居していただけるよう努めています。入居後も一人一人の入居者の話をよく聞き、どのような考えを持っておられるのかを把握できるよう努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人に面談を行うと同時に家族との面談も行っています。できるだけ本人抜きで家族と話す時間を作り、家族が施設に望んでいることを聞き出すようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族の困っていること、不安に思っていることの状況を確認して、改善に向けての話し合いの場を設けています。施設内だけで解決できないときには在宅介護支援センターや入所前のケアマネージャー、母体施設の上司にも相談しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに見学に来てもらったり、一緒にお茶を飲んだりしながら馴染んでもらえるようにしています。緊急での入居になった場合には家族との連携を密にし、可能な限り面会をお願いして職員も一緒に過ごす時間を多く持つようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時のアセスメントや本人との日常会話の中から生活歴を聞き出すようにしています。入居者がその人らしく、得意分野を大いに発揮して楽しく生活していただけるよう、お互いに感謝の気持ちを持って支えあう関係をつくっています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の利用者の様子を口頭や文書で伝える事により、家族と情報を共有し好ましい関係が築けてきていると思えます。利用者の生活を支えるため、家族からの協力も得られています。身体的・精神的な変化があった場合には、可能な限り家族の面会をお願いし一緒に対応を考えるようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事にはできるだけ家族にも参加してもらえようお願いします。利用者と家族と一緒に過ごす時間を多く持つてもらうことにより良い関係が保てるよう努めています。可能な方には外出や外泊も勧めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用したり、住みなれた地域へドライブに出かけたりしています。一人ひとりの生活習慣を尊重しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は、職員も一緒に楽しく会話し心身の状態、気分、感情の変化など注意深く見守っています。お茶に出てこられない利用者にも声かけし、様子観察しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設への入所、医療機関へ入院された方に対しても、機会を見つけて面会に行き、関係が途切れないようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、暮らし方の希望や、本心が話していただけるよう努めています。 その人らしく生活していただくため最良の方法を家族と話し合っています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで聞くようにしています。入居後も家族や知人の面会時に少しずつ把握するようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズム(起床・食事・排泄・入浴・就寝等)について把握するようにしています。出来ないことに目がいきがちですが、できるだけ出来る事を見つけて働きかけるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや、担当者を中心としたカンファレンス、計画の評価等を参考にして計画を作成しています。 本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に問題がなければ3ヶ月に1回のモニタリングによって計画の見直しを行っています。毎月のカンファレンスにより計画の見直しが必要でないかを検討しています。 身体及び精神の状況の変化に応じて計画を見直すと共に、変更申請しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況を記録するファイルと身体状況を記録するファイルを個別に用意し、利用者個々の様子を具体的に記載しています。全ての職員が確認できる個別記録を基にケアプランの見直しを行い、月末には担当職員を中心に評価を行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算の指定を受けています。本人、ご家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に2回消火訓練を計画し、消防局職員の派遣を依頼しています。地域の皆様の参加も呼びかけています。利用者の地域の自治会長が配布物を持ってきてくださり、地域の状況等を話してくださっています。民生委員さんとの年賀状のやり取りで近況報告しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族からの聞き取りでは不十分な情報について、在宅でのケアマネから情報収集しています。理美容に関しては訪問美容の利用や、馴染みの美容室への送迎を行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後、困難事例が発生した場合には相談にのってもらえるよう話し合っております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に本人・家族と話し合い、了解が得られれば協力病院(内科・外科・整形外科・耳鼻科・歯科)での受診を決めています。他の医療機関を希望される場合は家族同行で受診してもらっていますが、不可能なときは職員が代行しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の診断で専門医の診察が判断されれば、紹介状を書いてもらって専門医を受診しています。 利用者の一人は専門医の往診を受けており、指示や助言を受けています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員(管理者)が常駐しています。介護職員による日々の記録や状態変化の報告により必要な対応を行っています。週1回訪問する訪問看護師とは、気軽に相談できる関係ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供しています。洗濯物を取りに行くことを理由に毎日面会に行き病状の把握を行うとともに、早期退院に向けて主治医・看護職員・家族との話し合いを頻回に持つようにしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、希望されれば終末期まで介護することを説明しています。 状態変化があったときには、主治医の意見を参考にしながら本人・家族の希望を尊重した支援を行っています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在のところ対象者はいませんが、急変時には協力病院・主治医との連携がとれるよう準備はできています。 本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組むつもりです。 急変時はすぐに対応していただけるよう、医療機関とも密に連携を取り、対応しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設への移動が決まったら、アセスメントや必要な情報を提供しています。 新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにきめ細かい連携を心がけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを踏まえてトイレ誘導しています。失敗時はプライバシーに配慮して、不安や羞恥心を感じさせないようにさり気なく素早く対応しています。 食材の工夫や運動で自然排便を促しています。 リハパン使用者に対して随時見直しを行い、自立支援に取り組んでいます。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の希望される曜日、時間に合わせて入浴してもらっています。体調の悪いときには清拭や足浴で対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩や外気浴、レクリエーションへの参加を促すことにより、日中の生活リズムを活性化させ安眠の支援を行っています。 眠れず困っておられる利用者には静かに声かけし、眠くなるまで会話するようにしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の役割や出番を見出し、活躍の場面を見出しています。(配膳、下膳、洗濯物の整理、園芸等) 梅干しやそばつくり等、経験や知恵を発揮してもらっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者には財布を持ってもらっています。レジでの支払い、本人の手から支払う機会を作っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院受診のついでに近所をドライブし、季節を肌で感じてもらっています。 花見や市見学など、外出の行事も計画しています。 散歩コースは職員が決めるのではなく、利用者に考えてもらっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃の会話の中から利用者の行きたいところを聞き出すようにしています。町内での行きたい場所には個別、若しくは他の利用者と一緒に出かけています。 家族に協力を頂いて自宅への外出、外泊、墓参りなど計画しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話機を持って行き、他の利用者に遠慮することなく電話できるようにしています。利用者が希望される時間に、いつでもかけられるよう支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定してありません。 家族が気軽に尋ねてこられ、滞在中は居心地よく過ごしていただけるよう配慮しています。宿泊もできることを伝えていきます。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを全ての職員が認識しており、身体拘束のないケアを実践しています。 月に1回委員会を開催しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支え利用者や家族に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくていいよう配慮しています。利用者の居場所を確認する事により対応しています。利用者が一人で外に出ようとされる事がありますが、気持ちを共有し少し散歩したりして気持ちを落ち着かせていただきます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は担当職員が食堂内や居室の入り口が目に入る位置に座って見守りしながら作業を行っています。 夜間も、居室の入り口が見通せるソファで休む等して、早急な対応ができるようにしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は所定の場所に保管し鍵をかけています。 刃物は夜間は所定の場所に保管しますが、昼間は台所に置き利用者に危ないことのないよう見守っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員が救急救命法を受講するように計画しています。 年に2回は消防署職員からの講習・訓練を受けるようにしています。院内勉強会にも積極的に参加するようにしています。施設内にAEDをおいてあり、使用方法について定期的に確認しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時・事故発生時マニュアルを準備してあります。職員会議の中でも、勉強会や実演を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域での防災訓練に職員が参加し、万が一の時の応援を依頼してあります。年に2回は利用者と一緒に避難訓練を行っています。消火器の使い方も消防局の協力を得て訓練しています。火災発生時には、協力施設にも連絡が行くよう設定してあります。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒のリスクを心配して「外に出てほしくない」と言われる家族がありますが、本人の自立や意欲の向上を図るためには、ある程度の自由を認めてもらえるよう相談しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人一人の身体状況の変化や異常のサインを早期に発見できるよう全ての職員が注意深く観察し、重症化や入院を防ぐ努力をしています。気づいた変化は看護職員に報告し、記録に残すと共に職員間で共有し対応にあたっています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が使用する薬の目的や副作用について把握しておりきちんと服用できるよう手渡して、確実に服用されるのを見届けています。薬の処方や用量が変わったり、本人の状態に変化が見られるときは詳細に記録し、看護師や協力医療機関との連絡を取るようになっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の有無は毎日確認しています。便秘している利用者には、自然排便を促すための散歩や軽い運動、水分補給を勧めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全職員が口腔ケアの必要性を理解しています。食後には口腔ケアを行うよう個々の利用者に声かけしています。自分でできない利用者には、必要性を説明して必要な介助を行っています。市の歯科衛生士による定期的な指導も受けるようになっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の摂取量、水分摂取量、10時と15時の間食・水分摂取状況を記録して把握しています。 定例の給食委員会でメニューや食材についての検討を行い、管理栄養士(母体施設)からの助言をもらうようにしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが作成してあります。感染症予防委員会を毎月開催し、感染症に関する勉強会にも出席しています。万が一感染症が発生した場合、関連施設(病院・施設)と共同で対策委員会を開催し、早期に対応できるよう連携がとれています。利用者、全職員がインフルエンザの予防接種を受けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾、スポンジ等は毎晩漂白剤に浸けています。週に1回は冷蔵庫の点検・掃除を行い古い食材は処分しています。調理の前には必ず液体石鹸で手洗い、アルコール(エタプラス)で消毒しています。使用後の食器や調理用具は乾燥機で乾燥しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花を植えたプランターを並べてあります。玄関を入ると生花の活け花や職員手作りの小物が置いてあり、親しみやすい雰囲気になっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候のいい日には窓を開けて自然の風を感じてもらっています。台所から聞こえる生活音や味噌汁やご飯の炊ける匂い、近所の子供たちの元気な声を身近に感じられます。散歩の途中で摘んだ草花をテーブルに飾って季節を感じてもらっています。 家族や近所の人の感想や気づきを聞き入れ、心地良い生活空間作りに努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の決まった自分の席の他に和室のこたつ、廊下やテラスのベンチなど思い思いの場所で過ごされています。仲のよい利用者同士で寛いでいる姿も見られます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具や小物等を持ち込まれています。位牌や家族の写真を飾っておられる方もいます。寝具は、自宅で使われていたものを持ち込んでもらっています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気候や気温に配慮しながら、毎朝換気を行っています。食堂の温度調節は、寒暖計で確認し一定の温度より上昇したらクーラーを入れるようにしています。居室は、利用者の様子を見ながらタイマーで調整しています。気になる臭いに対しては、消臭剤をさり気なく置いています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下には転倒防止の為の手すりが設置しており、移動時には支えておられます。歩行に不安のある利用者にはシルバーカーを利用してもらうことにより、安全に歩行できるようにしています。車椅子を使用される方もおられます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「今、自分が何をしたいのかわからない」という利用者に対して、職員で話し合い統一した方法での働きかけをしています。自分の持ち物を理解できない利用者には、名前を書いた小物をつけて目印にしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや庭で寛いだり外気浴できるようベンチを置いてあります。テラスのプランターに野菜を植え、草取り等の世話や収穫を楽しんでいます。足湯の活用で、利用者同士の交流が深まっています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の皆さんと家族の関係を良好に保ちながら、施設での生活を継続させていただきたいと考えています。そのために、毎月、入居者の様子を手紙でお知らせするようにしていますし、行事には案内状を差し上げてできるだけご家族にも参加していただけるよう働きかけています。外出、外泊により自宅で家族と一緒に過ごす時間も大切にしています。